

福岡市におけるインフルエンザ疾患の流行状況(2003 年度)

保健科学部門 ウイルス担当

福岡市における今シーズンのインフルエンザ集団発生は 2004 年 1 月 20 日(第 3 週)に始まり、昨年よりも約 1 ヶ月遅いスタートとなった。流行曲線は 2004 年第 6 週に明確なピークを示し、2004 年第 8 週を最後に終息した(図 1)。

集団発生は計 19 施設で発生し、患者数は 571 人であり(表 1)、前 2 シーズンと比較して減少となった(表 2)。

感染症発生動向調査においても、昨年よりも遅い年明けの 2004 年第 2 週より患者が増加し始めた。2004 年第 6 週に明確なピークを示し、その後終息に向かった。なお今シーズンは第 20 週でほぼ終息している。

集団発生と感染症発生動向調査の患者報告数の推移はほぼ同じパターンであり、また全国と比較しても共に若干遅い流行となったが、ほぼ同じ流行状況をとった。

表 1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	4	166	76	1		3
小学校	4	197	95		1	3
中学校	10	679	380		1	9
その他	1	28	20		1	
計	19	1070	571	1	3	15

表 2 過去 5 シーズンの集団発生患者数

99/00	00/01	01/02	02/03	03/04
2386	34	806	813	571

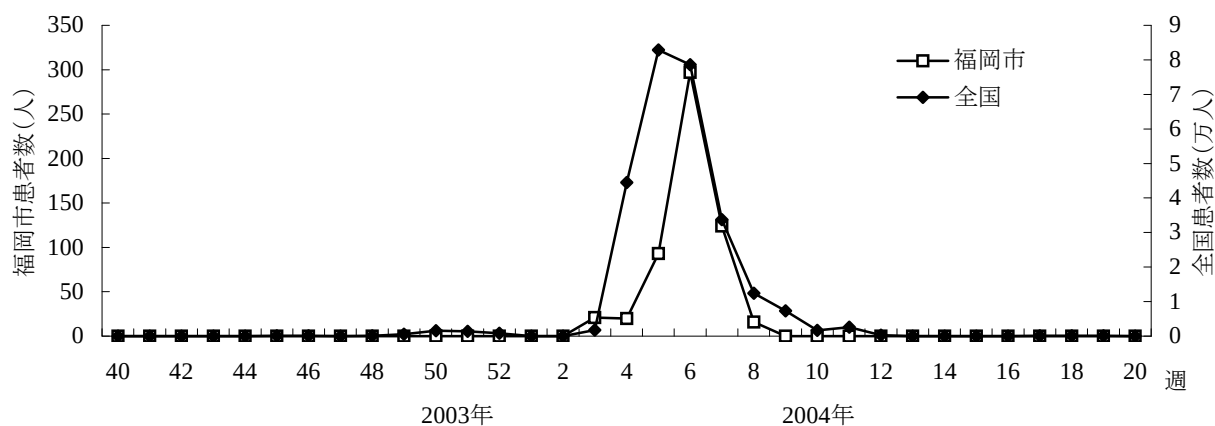


図 1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

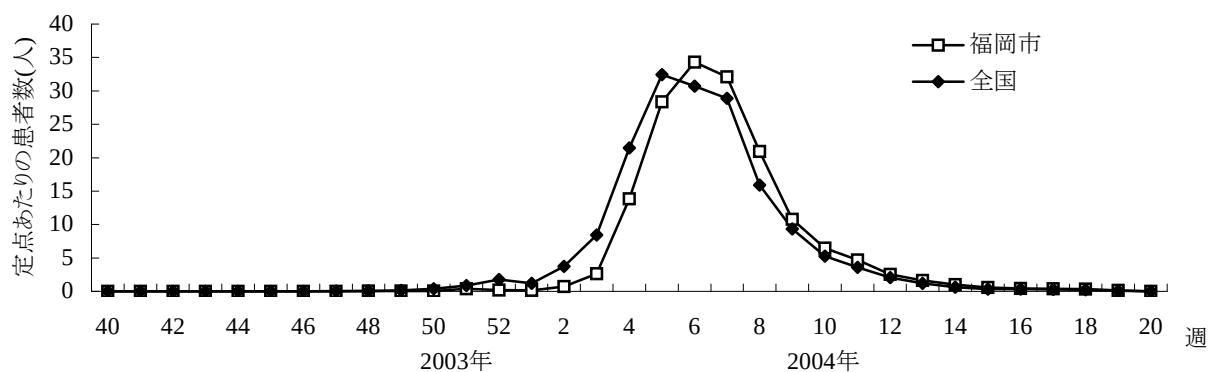


図 2 定点あたりのインフルエンザ疾患患者報告数

集団発生検体からは11検体中9検体からA・H3型が分離された。また、血清学的検査により10検体からA・H3型に対する抗体価の有意な上昇が確認された(表3)。

感染症動向調査からのウイルス分離はA・H3型が62株、B型が10株であった。図3に示すようにA・H3型は流行初期から中期に、B型は流行中期から後期にかけて

主に分離され、中期には両型が混在していた。

なお分離株の同定には国立感染症研究所配布のフェレット感染抗血清および羊免疫血清を用い、A型は62株すべてがA/熊本/102/02に近いタイプであり、B型は10株すべてがB/ヨハネスブルグ/5/99に近いタイプであった。

表3 集団発生事例におけるインフルエンザ検査結果

No.	年齢	性別	ウイルス 分離	ペア血清中HI抗体価						判 定
				A/モスクワ /13/98	A/ニューカレドニア /20/99	A/パナマ /2007/99	A/熊本 /102/02	B/山東 /07/97	B/ヨハネスブルグ /5/99	
				(H1N1)	(H1N1)	(H3N2)	(H3N2)			
1	12	女	A・H3	10	40	10	<10	<10	<10	A・H3型感染
				10	40	160	320	<10	<10	
2	11	女	A・H3	<10	20	10	<10	<10	<10	A・H3型感染
				<10	40	320	1280	<10	<10	
3	11	男	A・H3	160	10	10	10	<10	<10	A・H3型感染
				160	10	1280	5120	<10	<10	
4	11	男	A・H3	10	40	<10	<10	<10	<10	A・H3型感染
				20	80	160	160	<10	<10	
5	12	男	A・H3	<10	40	20	10	<10	20	A・H3型感染
				<10	40	640	640	<10	20	
6	14	男	—	160	20	20	10	<10	<10	A・H3型感染
				160	40	80	160	<10	<10	
7	14	女	—	640	80	40	160	10	<10	陰性
				640	80	80	160	10	<10	
8	14	女	A・H3	320	40	10	20	<10	10	A・H3型感染
				320	40	160	320	<10	10	
9	14	女	A・H3	160	10	40	20	<10	20	A・H3型感染
				160	10	320	640	<10	20	
10	14	男	A・H3	160	20	20	10	<10	10	A・H3型感染
				160	20	160	320	<10	10	
11	14	男	A・H3	160	10	80	40	<10	10	A・H3型感染
				160	10	640	1280	<10	10	

(注) 上段は急性期HI抗体価下段は回復期HI抗体価 急性期と回復期で4倍以上の抗体上昇を有意上昇とした
使用抗原6株は感染研分与診断用抗原

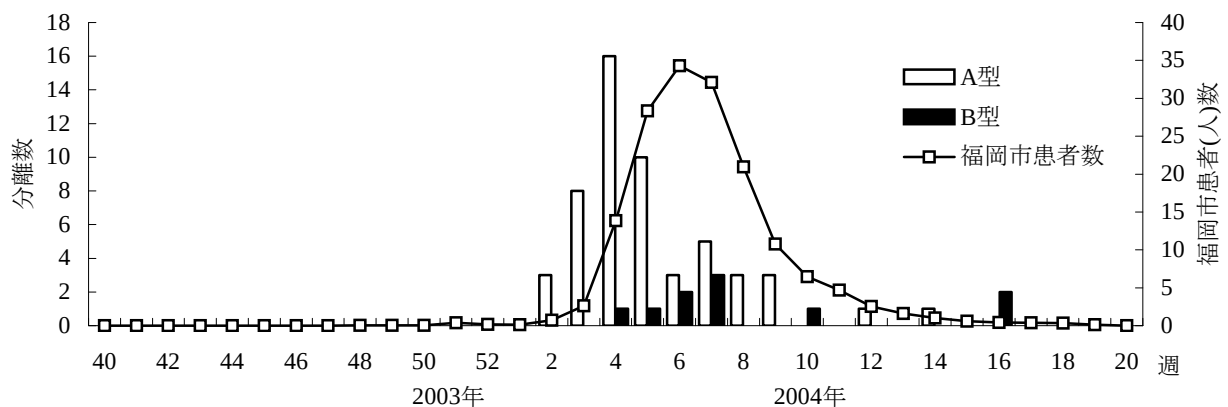


図3 福岡市の定点当たりの患者報告数と分離株数